



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学報

第67号



2020年度キリスト教活動年間テーマ

正義と平和を共に創造しよう

— Striving together for peace & righteousness —

「すべてのわざには時がある」

「何事にも時があり
天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」
(旧約聖書『コヘレトの言葉』3章1節)

学校法人 沖縄キリスト教学院

理事長

伊波 美智子



2020 年は 1 月に国内で初めて感染症が確認されたのを皮切りに「コロナ禍」に翻弄された 1 年となりました。禍ばかりで良いことは何もないようにみえるコロナですが、「禍福は糾える縄の如し」と言います。視点を変えて見れば、未来に向かって行動するために準備するまたとない時だと前向きに捉えることができるのではないのでしょうか。

太平洋戦争末期の熾烈な地上戦の爪痕が人々の心にも周囲の風景にも痛ましく残る中、平和の源である神の導きを求めて、生き残った人々の精神的支柱となって沖縄を再建しようと奔走した方々がいました。1957 年、首里教会の一隅から始まった本学は様々な困難を乗り越え、今、この西原の地で創立 64 周年を迎えようとしています。教会の伝道者養成という構想からスタートした各種学校であった本学は、1959 年に沖縄における私学第一号の沖縄キリスト教団立短期大学として認可されました。「きりたん」の愛称で親しまれた本学は、地元沖縄社会に支えられてこそ今日の発展があるのです。

「キリスト教、平和、沖縄」を建学の精神として力強く宣言する本学は、外国の宣教団体が設立したミッションスクールではありません。沖縄の教会が生み出し沖縄の社会が育ててくれた大学であり、沖縄社会の期待に応え、貢献するという使命を持っています。希望の源でもある神は、禍を恵みに変えて祝福してくださいます。今こそ、私たちは「沖縄の地にあるキリストの大学」、オンリーワンの大学として大胆に歩をすすめる「その時」を待ちつつ、飛躍への「備えの時」としたいものです。

探求と闘いの歴史における教育を

沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学 長

金 永秀



2020 年度は、新型コロナウィルスとの闘いに終始した一年でした。本学でも入学式が中止となり、長く対面授業も中止されました。コロナは、人間のあり方、教育のあり方が何なのかを突き付けました。しかし、人類にとってこのような恐るべき感染との闘いは初めてのことでありません。ペストや天然痘に対する歴史の延長線上に位置するものと言えます。

これ以外にも、様々な人類の危機的状況が露呈された 1 年でありました。地球環境保護、人権、平等、反貧困等の SDGs 運動の広がり一方で、無関心を示す勢力が浮き彫りにされました。又、この年、世界で民主主義国家が 46% の割合で少なくなったという報道は(「日本経済新聞」10 月 26 日)、大きな衝撃でした。このような時だからこそ、人間と自然環境への根本的な問いと啓発が、決して最近のことではなく、古くから重要な課題として認識され、獲得の闘いがなされてきたことを覚えてほしいものです。

宗教教育学者ジョージ・コーが、100 年程前にキリスト教教育の重要な事項として挙げたのは、従来一般的に考えられて来たような宗教的絶対価値への献身ではなく「諸価値の再価値化」(revaluing of values)でした (George Albert Coe, What is Christian Education, 1929)。コーは、今の時代がその価値を訴える 1 世紀も前に、多様性の重要性を見出したのでした。今年は、米国の黒人達への警官の暴力、白人至上主義者達の活動が続いていることが注目された年でもありました。“Black lives’ matter”が標語にされた運動も又、米国で長い間闘われてきた深刻な人権要求です。

今、本学の教育が再び見据えなければならないのは、長く継承されてきた、人間にとって本当に大切なことへの探求と闘いに資する教育ではないのでしょうか。

星槎大学との通信制課程科目等履修に関する協定締結式

2020 年 11 月 20 日に星槎大学との通信制課程科目等履修に関する協定締結式をオンラインで執り行いました。

星槎大学からは、山脇直司学長、渋谷聡教授(教育連携室室長)、中山康之事務局長、小澤勇人広報課長が出席され、画面越しにお互い出席者を紹介し、協定書の調印、挨拶という進行で行われました。

本協定により、星槎大学の教職課程を履修することができ『特別支援学校教諭免許』や『小学校教諭免許』など在学习中の取得免許の幅を拡大することが可能となります。

本学での英語の中学・高校教員 1 種免許状取得に加え、小学校教諭免許の取得は、英語のできるより幅の広い小学校教員を世に送り出すことが可能となります。また、特別支援教育の専門知識を持つ中学・高校および幼稚園の教員を育てることができます。このことは、学生達の将来を広げることに加え、沖縄社会及び日本社会の教員不足という社会的な課題に大学として寄与する意義を持つものと認識しています。



星槎大学山脇直司学長(左)と金(キム)学長

星槎大学 山脇直司学長のメッセージ

星槎大学は「人を認める」、「人を排除しない」、「仲間を作る」という理念を基に、「人と人との共生」「人と自然との共生」「人と国際社会との共生」をめざす共生科学を唯一の学部・学科とする通信制の大学です。これは、キリスト教の聖書にもある「地の塩」、「隣人愛」を実践する考えと非常に近いのだと理解しております。コロナ禍において、ますます分断していく社会に歯止めをかけるべく、この協定をきっかけとして沖縄キリスト教学院との交流を深めていきたいと思います。

金永秀学長メッセージ

この協定は本学の教育の幅を広げ、やる気のある学生がより高みを目指せる機会となり、更には沖縄社会、日本社会が必要とする人材をより多く輩出することにもつながると考えています。今後、星槎大学との関係を密にし、相互に助け合ってより良い教育の実を結ぶことができることを願っております。

沖縄県の SDGs パートナーに認定されました

本学は沖縄県が推進するSDGs普及に向けて「SDGsの達成に向けた取り組みを行うとともに、県民に向けたSDGsの普及活動を行う企業・団体」として2020年3月「おきなわSDGsパートナー」に県内私立大学として初めて認定されました。



玉城デニー知事と知念ゆかりさん(英コミ 4 年次)



(左から) 知念さん、玉城直美准教授、伊波美智子理事長

※持続可能な開発目標(SDGs)とは

SDGsとは、2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」において採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」で掲げられた、2030年までの国際社会全体の目標です。17のゴール(目標)と169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な範囲に総合的に取り組むこととしています。

C O N T E N T S

※ 理事長・学長メッセージ	2
※ 星槎大学との通信制課程科目等履修に関する協定締結式	3
※ 沖縄県のSDGsパートナーに認定されました	3
※ 平和・キリスト教 教育活動 宗教部	4
※ コロナ禍における本学の対応2020	6
※ 「1年間を振り返って」学生会長メッセージ	8
※ 学生の活躍	9
※ 若者が知りたい選挙の話 ※平和へのメッセージに込めた想い	
※ 沖縄キリスト教学院大学トピックス	10
※ 沖縄キリスト教短期大学トピックス	12
※ 大学・短期大学【共催】	14
※ 学生サービス	15
※ カレッジパーカー販売 ※学生ランチサービス	
※ キャリア支援	16

※ 2020年度 主な図書館行事	17
※ 学生支援・活動	18
※ この一年の取り組み 沖縄キリスト教平和総合研究所	19
※ 地域貢献	20
※ 理科教育支援事業 ※学校ボランティア実習	
※ 地域子育て支援実習(ワイワイプラザ in キリ短) ※出前講座	
※ 研究活動	21
※ 採用教員メッセージ	22
※ 同窓会・後援会の活動報告	22
※ 寄付感謝報告	23
※ 2020年度人事	23
※ 2019年度決算報告	23
※ Open Campus2021	24
※ 2022年度入試日程	24

クリスマス礼拝

全ての人に來られたキリスト

12月18日午後6時、沖縄キリスト教学院恒例のクリスマス礼拝が始まりました。本年は、新型コロナウイルス感染防止のため、これまでのようにチャペルを会場に90分を要する礼拝から、屋外で時間短縮(40分)の実施となりました。キャンパス全体を会場に、野間宗教部長補佐指導のもと、学生会、宗教部学生、副学長、有志教職員達、多くの人の協力によりキャンパス全体に電飾を輝かせた礼拝でした。

生憎の雨の中、北棟の二階に手話クラスの学生、三階に聖歌隊とキリスト教芸術クラスの学生達を配しての賛美礼拝が厳かに持たれました。参加数は約235名。校舎の中で、又、一部は傘を差して屋外での参加でした。聖書ルカ福音書2:8~14から金永秀学長による説教「全ての民に」と、平和を願って献金が捧げられました。ある参加者の感想「こんな私のもとにもイエスは奇跡、祝福を送ってくださるのだなと感動した」。例年と違った感動を与えられたひと時でした。



2020年12月18日

キリスト教講演会

共に平和を

2020年度のキリスト教講演会は、前期がコロナ対策のために行うことができませんでした。後期は、前期の分も合わせて余りあるような講演会の開催を期して10月22日(木)14:40よりチャペルと南棟教室に246名が参加して行われました。

講師は、ソウルの「韓国キリスト教長老会」所属、ソンドル香隣教会の主任担任牧師イム・ボラ先生でした。「正義と平和を求めてーコチグラ」(済州島の言葉で、「共に行こう」の意味)という主題でお話をいただきました。イム牧師は韓国国内外で研鑽を積み、沖縄にも半年滞在して、沖縄の実情をつぶさに見てこられました。

メッセージは韓国からオンラインで発信され、韓国のコロナの状況、聖書の解説、沖縄を含む平和に関して含蓄に富むお話をいただきました。同時通訳は、金永秀学長。宗教部では、初めて国際的な講演をオンラインで行いましたが、難しい調整を学生達の助けを得て行うことができました。



同時通訳をされる
金永秀学長

後期：2020年10月22日

月曜礼拝について

本学院では、毎週月曜日に礼拝を行っています。今年度はコロナの影響で礼拝時間を短縮し(9:50~10:10)行いました。礼拝は、動画配信や三密を避ける手段としてチャペルと南棟教室に分散しZoom配信しました。ネイティブ教員による英語礼拝や学生企画礼拝なども実施、学生が司会やピアノ・オルガンの奏楽にも関わっています。また、日本語から英語への同時通訳が教員指導の下、行われます。礼拝は神を賛美し、祈り、聖書の言葉を聞く時ですが、それはまた、キリスト者でない人にも生きる意味を問う時でもあり、キリスト教主義教育の根幹となる大事な時間です。



学生宗教委員会(HOPE)について

キリスト教信仰に立つ、本学ならではの大切な学生組織です。毎週月曜日にされる礼拝の司会や、礼拝音楽の演奏、キリスト教行事の企画・運営その他のキリスト教関連行事を行います。学生企画礼拝では、学生宗教委員が中心になって礼拝の内容について企画し、メッセージや聖歌隊としての賛美などを行っています。学生宗教委員のそれぞれの特技や個性を生かして活動しています。クリスマスでない学生も参加歓迎です。今後もさまざまな学生に関わってみたいと思います。



短冊に祈りを込めて



クリスマス礼拝聖歌隊

沖縄・平和キャンプ 一日研修

沖縄キリスト教学院の原点を学ぶ

2020年11月15日(日)爽やかな秋晴れの下、宗教部は一日平和研修を行いました。このプログラムは例年であれば夏休みに「平和キャンプ」として開催されていましたが、今年度はコロナ感染防止のために宿泊を伴うイベントが全てキャンセル。開催自体も危ぶまれていましたが、そういう状況の中でもできる事はないかと視点を変え、1日平和研修という形で学院の創設の地である首里を訪れる事になりました。

当日は、正に学院の出発地点である日本キリスト教団(旧：沖縄キリスト教団)首里教会の礼拝に出席しました。昼食後は、首里教会員の高江洲さんのガイドを受けながら教会内の資料館や首里城近辺の戦跡(現在注目が集まっている第32軍司令部壕跡など)や一中健児の塔等を巡り、首里教会と学院の繋がりが沖縄の地で与えられている「平和創造への使命」を確認することができました。この学びを次のステップに生かしていきたいと思います。



首里教会の前で



首里教会礼拝



首里教会資料館

礼拝堂横の資料館で足跡を学ぶ



教会ホールで昼食



旧校舎を想起しつつ



一中健児の塔



現存する最後の司令部壕
第5坑道



円覚寺裏側の放生橋は
何と国宝?!



壁にも弾痕

学生企画礼拝

2020年度は、後期に3回、学生企画礼拝を行いました。

11月2日の礼拝は「英語礼拝」で、伊舎堂さくらさん(英コミ3年)による英語のメッセージ『私は誰を恐れよう』と新城大輝さん(ヴォーカル:英コミ3年)と与那嶺琉さん(ギター:英コミ3年)の賛美『Your Love Never Fails』を行いました。「コロナ禍という暗闇の中でも、神様の愛は変わらず、私達を守っていて下さる」と語りかけました。

11月30日は、「HOPE-沖縄・平和キャンプ」一日研修の報告をスライドを用いて行いました。平和研修を通して、「平和を作り出す思い」を受け継ぎ、平和について祈り、学び、声を上げていこうと呼びかけました。その後、中庭に建てられたイルミネーションツリーの前で点灯式が行われました。

12月14日の「フィリピン海外ボランティア報告」では、現地でお世話になったコミュニティー・バニユーハイのために2018年の学園祭で古着や文房具を集め、2019年、その物資を送る資金を募り、2020年7月に無事届けることができました。この間の活動の報告と奉仕の喜びが語られました。



コロナ禍における本学の対応 2020

対面授業がオンラインへ代わり、友達とも会えない日々。
……そんな中でも見つけた、気づけた、大切なこと。

4/1

入学式中止

新型コロナウイルス感染症拡大防止を最優先に3/31中止を決定

4/2

学長就任式

教職員のみ出席で執り行われた

4/6

前期講義開始延期

講義開始を4/20に延期

4/9

危機管理委員会

新型コロナウイルス感染症問題対策について2月末から始まり毎週のように開かれた

4/15

教室整備・施設消毒

講義再開に向け教室整備を実施。間隔を空けた机の配置、飛沫ガードパネルの設置等を行った。また、教室整備を毎週木曜日に設定し実施。日常利用する施設・設備については、毎日消毒を実施。

4/20

沖縄県緊急事態宣言

感染拡大防止に全力で取り組むための対応として、沖縄県が緊急事態宣言を発出(4/20～5/6)

4/24

事務業務テレワークへ

県の要請により事務業務もテレワークへ

4/29

PC貸し出し

PCを持たない学生への貸出しを開始

4/2

学長メッセージ

学長が制作しました。

4/6

前期講義開始延期

講義開始を4/20に延期

4/9

危機管理委員会

新型コロナウイルス感染症問題対策について2月末から始まり毎週のように開かれた

4/15

教室整備・施設消毒

講義再開に向け教室整備を実施。間隔を空けた机の配置、飛沫ガードパネルの設置等を行った。また、教室整備を毎週木曜日に設定し実施。日常利用する施設・設備については、毎日消毒を実施。

4/20

沖縄県緊急事態宣言

感染拡大防止に全力で取り組むための対応として、沖縄県が緊急事態宣言を発出(4/20～5/6)

4/24

事務業務テレワークへ

県の要請により事務業務もテレワークへ

4/29

PC貸し出し

PCを持たない学生への貸出しを開始

8/1

沖縄県緊急事態宣言(警戒レベル3)

県内の新型コロナウイルス感染症警戒レベルを第3段階(感染流行期)に引き上げ、緊急事態宣言を発出

8/4

遠隔授業へ期間再延長

補講授業も全て遠隔授業へ切り替え(8/4～8/14)

8/8

オープンキャンパス

「どこでも! OPEN CAMPUS 2020」を3週連続でインスタライブ&Youtube配信

8/13

沖縄県緊急事態宣言(警戒レベル4)

県は新型コロナウイルス感染症警戒レベルを最高の4(感染まん延期)に引き上げ

6/1

入学対面式

2ヶ月遅れの「入学式」

6/9

各科紹介ムービー

各科の紹介や授業などをムービー配信

6/15

同時通訳集中講座中止の決定

同時通訳集中講座中止の決定

10/1

後期授業開始

対面授業による後期授業を開始。感染対策として手指の消毒、教室の換気、職員による検温を実施

10/5

始業礼拝(月曜礼拝)

始業礼拝(月曜礼拝)

10/8

キッチンカーでのランチサービス開始

県内人気のキッチンカーで学生のランチサービス開始(毎週火・木)

10/19

後期キリスト教週間

10/19～10/23

10/31

オープンキャンパス

今年度初の来場型で開催

12/10

図書館主催ビブリオバトル

図書館主催ビブリオバトル

12/18

クリスマス礼拝

新型コロナウイルス感染拡大防止のため礼拝時間を短縮し、会場もチャペルから中庭へ。学内関係者のみで開催

12/19

高校生英語弁論大会

大会出場者と引率1名のみを本学にお招きし、開催。大会の様子はオンラインで配信

2020 4月 — APRIL — 5月 — MAY — 6月 — JUNE — 7月 — JULY — 8月 — AUGUST — 9月 — SEPTEMBER — 10月 — OCTOBER — 11月 — NOVEMBER — 12月 — DECEMBER — 2021 1月 — JANUARY —

月曜礼拝

前期:12回 後期:13回

今年度の礼拝は、9:50～10:10に時間を短縮し、3密を避けるため学部学科毎に場所を分けて行い、チャペルでの礼拝を各教室にZoom配信

YouTube

(リスト数: 18本)

学長通信 (1)～(5)

YouTube

(リスト数: 5本)

5/1

学長通信

オンライン授業と格闘している学生へメッセージ動画配信

5/2

Office 365 利用開始

Office 365 利用開始

5/5

緊急事態措置期間を延期

政府が全都道府県を緊急事態措置の対象としたため、県も実施期間を5月末まで延長

5/7

対面授業開始を延期

緊急事態措置期間延長を受け、代替授業実施期間も延長へ

5/13

教員によるメッセージ動画

新入生・在学生、卒業生に向け教員からのメッセージ動画配信

5/14

沖縄県緊急事態宣言一部解除

緊急事態宣言による休業要請を一部解除

5/20

沖縄県緊急事態宣言解除

沖縄県緊急事態宣言解除

7/4

オープンキャンパス

インスタライブで配信

7/8

セタライトアップ

それぞれの「祈り」を短冊にしたため、チャペルをライトアップ

7/10

セタ祭

感染対策3点セット(検温、手指消毒、参加名簿)で祭りを盛り上げた

7/14

遠隔授業へ切り替え

県内の感染者増加に伴い、感染拡大防止措置として遠隔授業へ(7/14～7/24)

7/20

遠隔授業期間延長

在沖米軍基地内でのクラスター発生を受け、遠隔授業継続へ(7/24～8/3)

7/21

2020年度免許状更新講習の中止の決定

2020年度免許状更新講習の中止の決定

7/27

終業礼拝(月曜礼拝)

終業礼拝(月曜礼拝)

9/5

沖縄県緊急事態宣言解除

学生の学びをとめるな! 文系学科教員の苦手とするIT。初歩的な講座から開催し、教員のITスキルを徐々に上げ対応

9/7

【教員対象】遠隔授業実施対策講座2

3週に渡り、オンラインツールの初級編・授業応用編を開講

9/12

【入試直前緊急開催!!】インスタライブ、Zoom、対面で開催!

① QUESTION? AND ANSWER! ② Zoomで相談会 ③ [高3限定] 対面式相談会

9/23

公開講座中止

今年度の公開講座中止を決定

9/30

秋季卒業式

英語コミュニケーション学科8名、英語科5名の学生が卒業を迎えました。

11/13

学内英語弁論大会

三密を避け、複数の教室へライブ配信

11/18・19

カレッジパーカー販売

卒業生発案! OCU・OCJC カレッジパーカー予約販売

11/20

星槎大学との協定締結式

星槎大学との通信制課程科目等履修に関する協定締結式をオンラインで執り行った

2021 1/20

沖縄県緊急事態宣言(警戒レベル4)

県の警戒レベルを第4段階に引き上げ

1/21

一部遠隔授業開始

県内の新型コロナウイルス感染者の急激な増加を踏まえ、「沖縄キリスト教学院活動基準」(レベル2.5)に基づき、一部授業の遠隔授業切り替え

1/25

終業礼拝(月曜礼拝)

終業礼拝(月曜礼拝)

2月

2/4

沖縄県緊急事態宣言の延長

医療提供体制のひっ迫が続いていることなどから県独自の緊急事態宣言の延長を決定

2/20

オープンキャンパス

オープンキャンパス

「1年間を振り返って」

英語科(2020年度学生会長)

山内 梨音



1年間を振り返ってみると、コロナ渦でしたが、学生会メンバーの協力もあり充実した学生会活動を行うことが出来たと思います。印象に残っているのは七夕祭です。私が一年生の時、七夕祭に参加した事がきっかけで学生会に興味を持ち、会長に立候補しました。そんな思い入れのある七夕祭を、オンライン授業から対面授業に切り替わると同時に仲間達と企画しました。初めての行事でしっかり運営することが出来るのか不安ではありましたが、先輩や先生方からの助言もあり前向きに取り組めました。又、短時間での開催ではありましたが、多くの学生が参加してくれました。その参加してくれた方からは「楽しかった、ありがとう」と嬉しい言葉をもらい、厳しい環境の中でも皆さんの学生生活を充実させていこうと前向きに考えていくことが出来ました。今年度は学祭を開催する事は出来ませんでしたが、同級生や校内の美化活動を通して同窓生の方々と親睦を深めることが出来ました。卒業後は先輩方のように母校に恩返しができるように今やるべきことを考えて頑張っていきます。

コロナ対策は万全!

七夕祭

2020年7月10日



クリスマスイルミネーション

2020年12月18日



学生の活躍

若者が知りたい選挙の話 県議会議員候補者をお招きして

2020年5月25日



オンラインZoomによる授業の様子

選挙権が18歳に引き下げられ、授業を通して政治家を授業に招聘し学生との対話の機会を提供しております。今回は、2020年6月に実施される県議会選挙に因み、多様な意見や政策を掲げる候補者、男女3名ずつ、県議会議員合計6名を英語コミュニケーション学科1年次対象のフレッシュマンセミナーへ招聘致しました。新型コロナの影響もあり、オンラインによる遠隔授業の実施でした。

今回の選挙が初めての投票の機会になる学生も多く、熱心に政策を聞き、質問も積極的に出ていました。また、候補者の皆様も、難しい話ではなく、政治家としての人となりや沖縄県に対する熱い思い、学生時代の経験等も交えた内容でした。政治がより日常と密接に関わり、等しく与えられた一票の重みを理解したこと、若者が選挙に参加することで重要なことが政策に反映されることを体感したようでした。候補者の皆様も、初めて県議会議員へ立候補する方ばかりでしたので、直接対話の臨場感あふれる場となりました。

今後も選挙だけではなく、学生の地域フィールドワーク等を通じて学び、未来への提言を行う授業との連動の中で、行政や政治家の皆様との対話の場を増やしていきたいと考えております。

平和へのメッセージに込めた想い 沖縄平和賞授賞式での学生による朗読

2020年10月27日



玉城デニー沖縄県知事と共に

英語コミュニケーション学科2年次の石川芽(めい)さん自作の「過去を見つめ未来を平和へ」が、昨年10月、第10回沖縄平和賞授賞式典で読み上げる詩として選出されました。前期の授業において、沖縄戦、世界の難民問題を学んだ直後に学生らは詩を作成し、沖縄県に応募したものでした。多くの応募の中から石川さんが選出されたことが決まり、授業で共に学び合った6名が集い、上原

明子先生から詩の朗読パフォーマンスの教授を受けながら1か月ほどかけて練習を重ねました。本番の式典では、沖縄県知事を始めとして沖縄平和賞受賞団体に向けて詩の朗読を行いました。

「沖縄が平和であるために、日本が平和であるために、世界が平和であるために
私たち若者は何ができるだろう、なにをすべきなのだろう」——(詩の一部抜粋)

学生たちは日本語、英語、しまくとぅばを織り交ぜ表現しました。多くの本番では会場中を包み込む大きなエネルギーを放つパフォーマンスとなり、朗読を終えた後、会場中の拍手が大きく鳴り響きました。本学の建学の精神を受け継ぐ若者が沖縄社会にもたらすことの大きな意味を感じる時間となりました。

「第10回 沖縄平和賞 授賞式」

<https://www.youtube.com/watch?v=95bmkS6auHE&t=2228s>



【教職課程】 困難の中での教育実習

12人の学生が教職課程の履修を修了し、中学校・高校の一種免許状（英語）を取得して本学を巣立ちます。

教職課程の履修者は最終年度の9月に教育実習を行い、それまでの学びを実地に活かす機会をえます。その最終学年の今学年度は、新型コロナウイルスによる非常事態下で、様々な困難が発生しました。全体的にみると、教育実習自体が中止となり代替措置を行ったケースもあります。幸い本学学生は全員が教育実習を体験することができました。

それでも、教壇実習の回数が減り、学習サポート的な活動が増えた事例も多くありました。さらに、前期の授業が遠隔授業となったこともあり、通常の模擬授業の練習ができなかったことも学生にとっては不安要素となりました。

それでも、このような状況でも可能な教育の在り方を模索している実習校の様子を観察したことは大きな学びになったと思います。

また、遠隔授業でzoomを利用した模擬授業なども、新しい学校教育の可能性を発見することになったと思います。

修了者が良い教師になること、教職課程での学びを今後の人生に活かしていくことを願います。



【ゼミ紹介】 Christopher Valvona ゼミ

私の専門分野は英語教授法です。このゼミに参加する人の半数は英語教授法に興味がある学生や、将来英語教員を目指している学生で、残りは英語教育ではなくあらゆる分野（過去にはLGBTQの問題について、沖縄の観光、子供の貧困、待機児童、ファッションなど）の論文を指導してきました。

私のゼミは2年にわたり指導することがほとんどです。始めに、論文を書くにあたり、どのような分野に興味があるかブレインストーミングをします。どの学生も最初は広い分野のトピックについて考え始め、ディスカッションを通してテーマをより絞っていき、論文を書くにあたって適したテーマを選んでいきます。例を挙げると、「英語教育」から「発音」に焦点を絞り、それが「音楽による発音教育」などのテーマとなります。それから学生にそのテーマに関することを学術誌、新聞、百科事典などを使い調べ、そのトピックについて深くリサーチし、文献レビューに学んだことをまとめます。次に、自分の論文のリサーチエスチョンを考えます。そして、リサーチエスチョンに合ったデータの集め方（リサーチ、インタビュー、アンケートなど）を学生に伝授します。自分のデータを収集した後は結果を分析し、発見したことをまとめ、結論で自分のリサーチエスチョンで挙げた問いに答えます。それを英語で書きあげ、20ページほどの卒業論文に仕上げます。

もちろん学生にとって、特に英語で論文を書くのは大きなチャレンジになりますが、将来のさらなる学問、またはこれから就く仕事にとってとても良い経験になります。さらに、この2年にわたる過程を終えたときは、やり遂げたという達成感を得ることが出来、この経験を振り返るととても誇りに思う経験になるでしょう。

My area of specialty is English language Teaching (ELT). About half of the students who join my ZEMI are interested in researching issues related to ELT and possibly becoming an English teacher in the future, and half are interested in a wide variety of issues not connected to ELT (in the past, I have supervised students on topics as diverse as LGBTQ issues, Okinawa tourism, child poverty, 待機児童, fashion, and many more). I'm happy to accept students with all kinds of interests.

I work with most students over two years. At first, we spend some time brainstorming possible areas for research. Students usually begin with broad topics, and through discussion I encourage them to narrow their focus and find particular areas that would be suitable for research. So, for example, students narrow down from “English Language Teaching” to “English pronunciation” to “Learning English pronunciation through song”. Then, I train students in finding information in journals, news articles, encyclopedias, and other sources of reference, and students learn deeply about the topic and write a summary “Literature Review” of everything they learned. Next, students then think of their own “Research Question”, and I teach ways for them to gather data and information (research studies, interviews, surveys, etc) in order to answer that question. After gathering original data, students analyze the results, discuss the significance, and then draw conclusions that might answer their original research question. All of this is finally written up in a graduation thesis in English, which is usually about 20 pages in length.

Students certainly find doing this work a challenge, especially doing it in English. However, this thesis can be of great value to students in their future studies and work. What's more, I have no doubt that at the end of the 2-year process students feel a great sense of accomplishment, and their English graduation thesis is something they will be able to look back on with great pride for many years to come.



Christopher Valvona 教授

【学 位】 M.A. University of Oxford M.A. Essex University	【研究分野】 ○Task-based language teaching (TBLT) ○Learner Autonomy ○Materials Development ○Authentic Materials
【専門分野】 English Language Teaching	

英語コミュニケーション学科の新たな試み～「パフォーマンス」～

この度、英語コミュニケーション学科では、新たなカリキュラム改革に取り組みました。「パフォーマンス」の導入です。

昨今、「コミュ障」という言葉が流行りました。もともとインターネット上のスラングで、「コミュニケーション障害」を意味します。スラングなので正式な医学用語でもありません。しかし最近、若者たちが自分自身のことを「コミュ障」と恥ずかしげもなく宣言している場面に、よく出くわすようになりました。話を聞いてみると、どうやら人前で話すことに苦手意識を持っているようです。自分の気持ちや考えを、うまく表現できない。そんな自分を「コミュ障」と表現しているようでした。でも周りを見渡してみると、日本はコミュニケーション能力を重視する「コミュ重」社会。企業を対象にした各調査機関の調査が示す結果は、「新入社員に最も求める能力はコミュニケーション力」という結果なのです。つまりコミュニケーション能力がないと、就職活動やキャリア形成にも不利だということです。また昨年から今年にかけての新型コロナウイルスの感染拡大で、マスク着用が生活の常識となってきました。感染拡大防止の観点からマスクは必要なのですが、これがまた私たちの人間関係に影響を及ぼしています。マスクをすることでお互いの表情が読みづらくなり、細やかな感情の変化や表情のニュアンスに疎くなりました。同時に、相手に表情を読まれないことからマスクの下で無理に表情を作ることもなくなりました。表情を作ることさえ面倒くさくなり、マスクをつける方が楽に感じる人も多くなりました。マスクの内側に引きこもり、マスクに依存するとともに、自分の気持ちを表情で表現する機会も減ってきました。これでは「コミュ障」に一層拍車をかけることになりますね。英語コミュニケーション学科としては、これまで英語教育に多くの力を注いできましたが、同時にコミュニケーションの分野が社会的に重要性を増していることに気づきました。それで今回、コミュニケーション学の一環として、「パフォーマンス」を導入することになったのです。パフォーマンスのなかでも特に自己表現に力を入れるカリキュラムに導入することで、コロナ禍で鈍ってしまった自己表現力を強化しようというわけです。さて、どのようにしてパフォーマンスの要素をコミュニケーション学に取り入れるか。この課題に取り組んだのが、本学科でコミュニケー

ション関連科目を担当する仲里和花先生、アメリカ留学中に多くのパフォーマンスに関わってきた小嶺千尋先生、そして本学のカリキュラムを知り尽くした真栄田美奈教務課長でした。マネジメント専門の職員とティーチング専門の教員がチームとなり成し遂げた教職協働の結果、バラエティーに富んだ科目群が誕生しました。その一つである「身体表現ワークショップ」では、3名の講師を招いて講義を展開します。まずは、タレント事務所「オフィス・リゾム」の喜屋武厚子代表を招いてウォーキングや身のこなし方、内面から自信を持って自己表現する身体表現の基礎を学びます。次に「お笑い米軍基地」などで有名な「FEC」から知念だしんいちろうさんをお呼びして舞台やお笑いにおける身体表現から自己表現の方法を学びます。そして3番目の講師は、韓国のK-Popアーティスト養成事務所から指導員を招いて、ダンスを応用した自己表現のバリエーションを学びます。まず一年次でこのようなパフォーマンスの醍醐味を体験します。その後、パフォーマンスをコミュニケーション学や心理学、文学など様々な分野からアカデミックに学ぶカリキュラムができあがりしました。世界的に有名なK-Popグループ、BTSが国連ユニセフでスピーチをした際、“Find your name, find your voice by speaking yourself”(自分を見つけてください。自分自身のことを語ることで、自分の声を見つけてください)と世界中の若者に語りかけました。パフォーマンスを取り入れた今回のカリキュラム改革の目的も、まさに本学の学生が自分の個性に気づき、自分自身の考えや思いを、自分の声で表現できるようになることにあります。



琉球アイデンティティ・サミット 6th Loochoo Identity Summit IN Hawai'i 「貫花」2020

2020年3月6日～8日、ハワイで第6回琉球アイデンティティ・サミット(Loochoo Identity Summit)が開催され、前年度(2019年3月の第5回会議)に続いて本年度も本学から7名と本学教員2名が参加しました。ハワイの沖縄系3世、4世によって伝統芸能や琉球歴史文化の継承活動を行ってきたNPO法人「御冠船歌舞団」が、2015年から「琉球アイデンティティ」をテーマに語り合う場として、全てコミュニティボランティアの運営により本サミットが開催されてきました。会議の前には本学からの参加学生のために、ハワイ語イマージョンスクールやハワイアン聖地の一つである遺跡訪問、小学校でのハワイアン・スタディーズクラスへの見学参加、そしてイオラニ宮殿の見学など、大変充実したフィールドワークも準備してもらいました。2020年の第6回会議は「貫花 Nuchibana: Relationship that tie & bind our community(私たちのコミュニティを繋ぎ合わせる絆)」をテーマに約150名がハワイ内外から世代や国籍を超えてオアフ島のウインワード・コミュニティカレッジに集まりました。今回はまた、首里城関連でドキュメンタリー番組を制作していたOTVの取材班もフィールドワーク及びサミットに参加し、本学学生もサミットを通して首里城や沖縄アイデンティティについてインタビュー取材がされました。このドキュメンタリーは『海に向こうの首里城』として2020年11月に放送され、第29回FNSドキュメンタリー大賞作品にノミネートされ、見事優秀賞を受賞しました。



サミットの会場で、沖縄戦を体験したハワイ在住の方から話を聞く本学学生



ドキュメンタリーはビデオDVDで視聴可能です。ご希望の方は小嶺までお問い合わせください。



フィールドワークでハワイアンの聖地を訪問。遺跡保存や地域の教育活動を行なっている方々に貴重な話を聞くことができました



最終日はこのような盛大な「アロハ・パーティー」を沖縄から来た若者たちのために開催してくださいます

沖縄キリスト教短期大学

英語科 **ホスピタリティー&ツーリズム** ――11月7日(土)、11月21日(土)、12月5日(土)

本授業は2018年度より英語科の国際観光ビジネス群の選択必修科目として開講されました。「沖縄の魅力を世界に伝える観光産業の現場から学ぶ」をコンセプトに、国際化する沖縄の観光産業の現場を訪れて、現場のプロから働くことの意味や目的の見つけ方とホスピタリティーの精神について学ぶことを目的としています。

座学で専門知識を学んだ後、ホテル現場やテーマパークにて実地研修をします。2020年度は、シティホテル、リゾートホテル、テーマパークの3つの施設で研修を行いました。

恩納村のリゾートホテルでは、シティホテルとの施設やサービスの違いを学ぶため、英語科1年生を中心に35名が参加しました。訪れたリザンシーパークホテル谷茶ベイの山根部長から施設の紹介や「社会人としての自覚、仕事に対する心構え」をお話いただきました。その後、館内施設の見学や、現場担当者の皆様から説明や質疑応答といった現場の生の声も聞かせていただきました。また、ブッフェランチの楽しみ方やテーブルマナーも実際に体験しながら学びました。

テーマパークでは、沖縄の歴史・文化・自然を学ぶ目的としておきなわワールド・文化王国・玉泉洞を訪問しました。当日は上間所長から園内施設の説明を受けた後、スーパーエイサーの演舞を見学しました。昔から受け継がれる伝統エイサー、ポップスを取り入れた現代の創作エイサー、迫力ある太鼓の音と躍動感ある踊りに学生たちが圧倒され、息を呑むほど感動した姿が印象的でした。その後は、全長5000m、鍾乳石は100万本以上にもなる国内最大級の鍾乳洞を見学しました。そこでは普段体験することのできない神秘的な空間とそのスケールの大きさに驚きの表情を見せていました。このようなフィールドワークは日頃の授業では体験できない沖縄の魅力を再発見することができず。



山根部長による座学研修
「社会人になる心構えについて」
(リザンシーパークホテル谷茶ベイ)



入場前の事前講習 (おきなわワールド)



一番人気のスーパーエイサー公演
(おきなわワールド)

参加した学生たちの感想 リザンシーパークホテル谷茶ベイ

「この会社の社長になるという強い覚悟をもって働くに見える世界が変わってくる」という講師の言葉に胸を打たれました。ホテルの従業員はその覚悟をもっているからこそ、お客様の心配を安全に、不安を安心に、期待を満足に変えることができるのだと思いました。1年後始まる就職活動に向けて努力していかねばならないと実感させられる実地研修でした。

仕事をする本当の目的は「自分の得たものを誰かに渡すこと」であるということを知り、感銘を受けました。教育が目に見えてわかるように、「わたしたちの両親から学んだものを次は私たちが自分の子に伝えていく。」の大切な姿勢が仕事をしていく中でも重要になってくるのだという事を学びました。

仕事を成功させられる人は“選択”ができる人と教えて頂きました。自分で決断をできる人は主体性があり、それは仕事をする上でとても重要なことだからです。この話を聞き私は、改善しようと決意しました。

参加した学生たちの感想 おきなわワールド

沖縄に住んでいても、沖縄文化に触れる機会は少ないので、今回の実地研修で改めて沖縄の文化そして沖縄の工芸品や芸能について理解を深めることができる素晴らしい場所だと思いました。

これまでなかなか鍾乳洞に足を運ぶ機会がなかったため、改めて自然が創り出すものの凄さとしの工芸品や芸能について理解を深めることができた。この授業を履修していて良かったと思いました。

コロナの影響で減少した観光客にエイサーを披露し、出演した皆さんの一生懸命の姿勢やプログラムの工夫のすべてが感動につながりました。その姿勢に感銘を受けました。

私は南城市に住んでいて、今回実地研修の形でおきなわワールドについて事前に調べること、知らなかった事を詳しく理解できました。「地元を知る」意味でとても勉強になりました。

英語科 2020年度 航空ビジネス入門

2018年にスタートした集中講座「航空ビジネス入門」(戸崎肇客員教授、8/24～8/28)は、交通政策分野の第一人者である戸崎先生による講義にはじまり、航空会社(JTA)の多くの部門の現場で現役の方々からなるオムニバス形式で行われています。今年はコロナ禍のため、全15回をすべてZoomで行うこととなりましたが、それでも実りの多い講座となりました。

しかし、残念なことに前年度まで実施していた那覇空港旅客ターミナル内にあるJTA本部、荷物運搬所、航空機整備工場などの施設見学、中でもボーイング機のモックアップ(実物大模型)を活用した緊急時訓練がコロナの影響で体験することができませんでした。その代わりとして、空港施設紹介動画(JTA作成)を通して、旅客、統制・運航管理・空港所管理等、多種多様な業務について多くの知見を得ることができました。学生からは「空港には多くの役割を持った人が働いており、パイロットや客室乗務員だけでは飛行機が飛ばせないことを改めて感じ取れました。整備士や旅客乗務員、運航管理官など多くの人たちの支えがあることを知りました」という声がよせられました。

今年の特徴としては、空港における感染拡大防止への対策の徹底ぶりが挙げられます。ある学生は「飛沫感染防止フィルムや指先のアルコール消毒などは多くのお店などで取り入れられています。空港では車椅子やベビーカーなども徹底的に除菌し、その上除菌済みのものには上からシートのようなものをかぶせており、お客様のことを第一に考えていて素晴らしいなと思いました」と感想を述べています。

英語科 台湾研修

2021年度より、英語科は「多文化共生」を軸にして、新たな取り組みを導入します。その1つに台湾研修があります。台湾には多民族が移住しており、お互いの文化を尊重し合いながら生活し、公用語の中国語に加え英語が通じ、SDGsに特化した観光産業も盛んです。研修目的は言語・文化の交流と観光産業の調査です。4泊5日の研修期間中、英語科1年次は与えられた課題を独自に調査し、帰国後にその結果についてプレゼンしてもらいます。

言語と文化に関しては、現地のキリスト教関連大学との交流を計画しており、英語・中国語を駆使して、文化交流を行います。観光産業に関しては、現地の観光地(戦跡)の見学と、実際に観光施設へ研修の機会を設けています。台湾には、日本植民地時代の爪痕が、観光資源として利用されている場所が多くあり、この手法は、沖縄県のSDGsにも大きく貢献できると考えています。さらに、台北にある日本老舗の温泉旅館「加賀谷」(日本風の「おもてなし」を忠実に再現した人気旅館)にも研修に行きます。台湾研修は、学生の学術的・精神的にも充実した、内容が身に就くプログラムになっています。



保育科 2020年度の教育実習 ―コロナ禍での代替実習―

1 初めに

2020年の年明けとともに、人類史上初の新型コロナウイルス感染症が世の中を騒がせました。日々状況の悪化で社会の情勢が大きく変動し、学生の学習環境も変わりました。対面授業から遠隔授業へと変わったとき、教育実習への影響は露ほども考えませんでした。ところが、8月13日文部科学省から「教員免許取得に関する特例」の通知が出、沖縄県の警戒レベルが4に上がり、追い打ちをかけるかのように那覇市教育委員会から教育実習受け入れ不可の連絡があったときは驚愕です。(もう、支援してくれる行政機関が無い。)リモート実習に変更するしかない科内会議で審議・決定いたしました。

2 取り組み

実習事前指導において、実習で取り組む課題として、「幼児と先生との関わり」を多くの学生が学ぶことを挙げていました。課題解消のために、幼児理解、場面理解を考えさせるDVDを作成することにしました。それをメインに外部講師による講話、講話を受けて学生同士のディスカッション等を組み入れる計画を立てました。リモートによるディスカッションは、学習支援課の皆さんのご協力のおかげでスムーズに進めることができました。また、「幼稚園児の1日」は、西原町教育委員会のご協力があり、幼稚園児の登園前から降園、預かり保育までを保育科教員はカメラを片手に早朝から夕方まで撮影したオリジナル作品であることを特筆します。1日の終了時には、先生方全員で画面を通して学生へエールを送りました。5日間の内容は下記表のとおりです。

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
午 前	【講話】幼稚園とは？ 園児と先生の関わり	【DVD】 幼稚園の先生の1日	【DVD】 幼稚園児の1日	【講話】教育課程と 週案	【調査】ヒヤリハット と安全指導
午 後	グループ討議 まとめ・反省	グループ討議 まとめ・反省	グループ討議 まとめ・反省	グループ討議 まとめ・反省	実地踏査 まとめ・反省

3 学生の声

- 今回の講義を通して、実習生同士のディスカッションの意見交換が有意義で勉強になりました。自分の考えを聞いてもらったり、相手の考えを聞いて自分が気づかなかったことに気づかされたり、質問を投げあったりして、とてもいいディスカッションになったのではないかと思います。
- 先生方の講義やDVDを見て、この場面で自分ならどうするかと実際の場面を想定しながら、メモの端に自分の考えを書くことを心がけました。
- 1番印象に残ったことは、いろいろな視点から物事を見る大切さを感じました。午後の「園外の安全環境を調査する」を行ったとき、いつも何気なく通っている道でも小さい子が一緒ならどうなのかを考えながら歩いてみると、段差や直角にある塀など危険なところがたくさんあることを知り多くを学ぶことができました。

4 結びに

本年度、教育現場で実習ができないという前代未聞の事態に保育科教員は絶句でした。しかし、(どうすれば、実習に見合うような内容を学生に提供できるか)と即座に次のことを考えなければならぬほど、時間的に切羽詰まった時期でした。「教育現場における実習に勝るものはない」という信念を持ち続け、少しでもそれに近づけるような内容を構成することを心がけました。その結果、期間中の学生の受講態度として、5日間出席者100%、時間内提出者97%、教育実習日誌提出者100%です。その間の実習指導担当の教員のチームワーク力のもとに保育科の先生方の協力のおかげで無事終了することができたことを報告させていただきます。結びに、DVD撮影にご協力いただいた西原町教育委員会に心よりお礼申し上げます。

大学・短期大学【共催】

○ハイブリット形式配信による学内英語弁論大会

2020年11月13日

今年度の学内英語弁論大会は、COVID-19拡散の防止策として、ハイブリット形式(対面と遠隔)で開催されました。ハイブリット形式は月曜日に行われている「月曜礼拝」でも活用されており、配信はスムーズに行われました。また、弁論大会を盛り上げる工夫として、「QRコード」を用いたオンライン投票を去年に引き続き、今年も導入しました。その結果、多くの学生がその場の雰囲気を感じ、話者の言葉に耳を傾けていました。

今年は8名のエントリーがあり、その中から4名が入賞しました。ここでは4名のスピーチ内容を掻い摘んで説明していきます。Best 1st Year Prizeは英語コミュニケーション学科(以後「英コミ」)の中川咲穂さん(1年次)が受賞しました。タイトルは「The lessons I learned during COVID-19」。コロナ禍で孤立してしまい、精神的な不安に陥ってしまったが、生きている事への感謝、そして仲間がいることへの感謝に生き甲斐を見つけたという内容でした。3位に入賞したのは短大英語科1年次の新里結沙さんでした。彼女の「Animals' Lives Matter」では動物の命を持って余す人間の無責任な行動について、痛烈に批判していました。殺処分される動物の数をゼロにするのが彼女の望みだと語る姿が印象深かったです。2位に入賞した英コミの知念ゆかりさん(4年次)は、「The world's toughest job」とは何でしょうか?という質問から始まり、家庭の仕事だけでも多忙であるにも関わらず、「母親」は家庭外での職業もこなさなくてはならない「世界でタフな職業」であるとユーモアを交えながら語っていました。1位と聴衆者オンライン投票をダブル受賞したのは英コミ3年次の伊舎堂さくらさん(3年次)でした。「Finding Identity」では、彼女自身のアイデンティティ模索の旅がどれほど苦痛であったかを語り、やっとキリスト教学院大学で真の自分に向き合うことができたことと力強く語っていました。全てのスピーチが、聴衆者の心に訴え、その場の雰囲気を全員で共有できたのは、大変素晴らしいことだと思います。勇気を与えてくれた全てのスピーカーに感謝の意を述べたいと思います。



受賞者のみなさんと

○学内英語弁論大会結果

第1位 & Audience Prize	伊舎堂 さくら (英コミ 3 年)	"Finding Identity"
第2位	知念 ゆかり (英コミ 4 年)	The world's toughest job
第3位	新里 結沙 (英語科 1 年)	Animals' Lives Matter
Best 1st Year Prize	中川 咲穂 (英コミ 1 年)	The lessons I learned during COVID-19

○高校生英語弁論大会

2020年12月19日

2020年12月19日(土)、本院の伝統行事とも言える「高校生英語弁論大会」は第32回を数えました。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、会場への観客動員を極力制限し、大会の様子をオンラインで配信するという形で無事開催することができました。本学教職員、スタッフ及び学生ボランティア1名(例年なら4、5名)のチームワークによって、初めてのオンライン配信や感染防止対策もスムーズに実施することができました。11名の高校生出場者たちの中には遠くは八重山からの参加もあり、コロナ禍に負けない高校生たちの前向きなチャレンジ精神に勇気づけられる大会となりました。人と人が直接繋がるのが制限されている今だからこそ、高校生が英語をツールとして自らの体験や意見、想いを多くの人に伝える場を、新しい形で提供できた意義は大きかったのではないのでしょうか。また、オンライン配信によって、当日のスピーチの様子をライブ配信後もホームページを通じて視聴することができ、より多くのオーディエンスに出場者の熱い想いと練習の成果を届けることができました。昨年度に引き続き、入賞者には、本学に入学した場合、Oxford研修またはハワイ研修、いずれかの海外研修に無償(1回)で参加することができる「海外研修奨学金」も授与されました。この大会の様子を多くの方々を知ってもらい、来年度のさらなる盛り上がりを期待したいと思います。



出場者のみなさん

○高校生英語弁論大会結果

第1位	藤原 倫 八重山高等学校 2 年	ゼロ殺処分にに向けて Toward Zero Slaughter
第2位	川木 藍 開邦高等学校 2 年	相対的価値から絶対的価値への転換 Conversion from relative value to absolute value
第3位	金城 早紀 球陽高等学校 1 年	あなたのロールモデルは誰ですか Who's your Role model?
Best Impromptu 賞	川木 藍 開邦高等学校 2 年	相対的価値から絶対的価値への転換 Conversion from relative value to absolute value
学長賞	新川 咲 読谷高等学校 2 年	食の戦争 The War on Food

○ティーチング・アワード

2020年10月21日

2020年度ティーチング・アワード授与式を10月21日学長室にて開催しました。沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学FD委員会では、前年度に行った学生による授業改善・授業評価アンケートなどをもとに、教育実践に顕著な成果をあげた教育職員(非常勤講師を含む)に対し、その功績をティーチング・アワードとして顕彰しており、今年度は沖縄キリスト教学院大学から1名、沖縄キリスト教短期大学から2名選出しました。授与式では金学長より受賞者に表彰状とお祝いの言葉がかけられました。FD推進のため受賞者による授業動画を学内webで共有しました。



大学の受賞者 山城利乃 講師
(息をとめています ^^)



短期大学の受賞者
Staci Hawley Praske 非常勤講師(左)と
仲松あかり 講師(右)



仲松あかり先生と肘タッチ

学生サービス

OCU・OCJCカレッジパーカー販売

2020年11月18日・19日

新型コロナウイルスが猛威を振るった2020年春、対面授業がオンライン授業へ、学内イベントが中止になるなど、本来のキャンパスライフを経験できない1年でした。テレビをつければ暗いニュースを目にし、行動にも制限がかかり、少し前とはすっかり違う世界となりました。しかし、今だからこそできることがある!という想いから、卒業生の島袋祐さん、渡慶次智美さんがデザインしたカレッジパーカーを学内で販売しました。2日間という短期間でしたが、学生・教職員含め約300着販売という結果となりました。学内最大のイベント「クリスマス礼拝」に受取日を設定したことで、パーカーを着て参加する学生・教職員の姿が見られ、一体感を感じました。「学生のみんなにキャンパスライフを謳歌してほしい!」、「大好きな仲間とこの大学で素敵な思い出を作って欲しい!」、「かけがえのない時間を私達にプレゼントしてくれた大好きな母校に貢献したい!」この企画を通して、みなさんの笑顔と共に、キャンパスライフを彩ることができたと思います。



予約受付



予約の山、山、山!



引渡し当日。
たくさんの在学生が並びました



ご予約のパーカーは
コチラですね?



カレッジパーカーで礼拝に参加♪

企画した卒業生メンバー

りな・みき・とーこ・たすく

学生ランチサービス (キッチンカー)

新型コロナウイルスの影響で、思うようなキャンパスライフを過ごせない中、2020年10月より対面授業が開始されたことをきっかけに、学外からキッチンカーを招き、学生へのランチサービスを行っています。少しでも学生生活を楽しんでもらいたいという思いから企画し、週に2回、学内の中庭で、県内で人気のキッチンカーが複数店舗並び、販売。これまでにステーキ、パスタ、ハンバーガー、ピザ、タピオカドリンク、クレープなど、カラフルな車が中庭を賑わしてきました。学生達からは、おしゃれ、お祭り気分、インスタ映えする、といった喜びの声が聞かれ、昼食を楽しんでもらっています。



人気のキッチンカーが勢揃い



今日は何にする〜? ^^



屋はガツンとステーキで!



イエエエエ



「何がいいかなあ」学長や教員も悩みます

○環境整備トイレリニューアル

西原キャンパスに移転して31年。施設の老朽化対策、キャンパスアメニティの充実、学生満足度の向上等を目的として、4年前の南棟1階のトイレリフォームに続き、北棟2階のトイレのリフォームが完了しました。多目的トイレを増設し、女子トイレには明るい雰囲気のパウダールームを設置しました。体育館横とチャペル横のトイレは、落ち着いた色合いの清潔感のあるトイレに変わり、姿見の鏡がついて身だしなみをチェックすることもでき学生からも好評です。これからも引き続き、学生の声を大切に、安全で過ごしやすいキャンパスを目指して計画的に施設等の整備を推進していく予定です。



北棟 2 階



体育館横 (1)



体育館横 (2)



西棟 2 階 (1)



西棟 2 階 (2)

キャリア支援

— 就職関連 —

「コロナウィルス-19」感染拡大の影響について

学内で予定されていたイベントの多くは外部から企業や保育園の方をお招きするためにほとんどが中止、縮小となりました。また学外で行われる多くの「企業合同説明会」は中止となったため、生の情報収集が難しくなり、かつ企業との直接的な接点を失いました。企業側は景気の先行き(回復)が見えないため、求人活動自体が例年より時期が遅れたり、保留となったり、中止、採用縮小となりました。「コロナウィルス-19」感染拡大の影響を特に受けたのは「第3次産業」です。特に沖縄県は依存度が高いため(第3次産業総生産 全国2位)求人数が減り、それに伴い本学の県内企業の求人数も前年比70%と大きく減少したため、県内就職を希望する学生にとっては当初の希望職種からの方針転向など、負の連鎖のなかでの就職活動となりました。

2020年度の就活支援

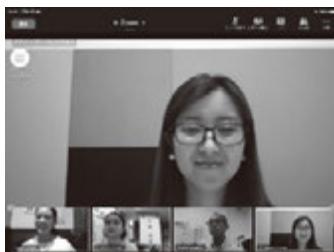
左記の通り、学生は例年通りの「就活」は出来ず、キャリア支援課も今までとは違う「サポート」を提供することになりました。遠隔授業開始とともに「サポート」も遠隔へと移行したのです。いままでは個別に直接対面で行っていた「相談」、「模擬面接」、「添削(履歴書・エントリーシート)」をすべてオンライン対応としました。ツールとしては「Zoom」、「Google classroom」、「Microsoft teams」を使用しました。またセミナーもteamsを使って少しでもコロナ禍の影響を減らすようにいたしました。

進路セミナー

2020年6月～7月

英コミ学科、英語科1年次を対象に、「進路セミナー」を6月～7月に開催しました。前年までは「丸1日」を使って開催していましたが、今年度から「フレッシュマンセミナー」を2回に分けて行いました。キャリア支援課が中心となり、学生課、国際平和文化交流センターの協力を得て、学生自身が大学4年間、短大2年間の学生生活をロードマップで確認しながら、就職や進学、留学などの進路について考えるプログラムです。学科別のプログラムでは、卒業生を迎えた「OB・OGパネルディスカッション」を実施しました。社会人としてキャリアを積

んだ卒業生から、仕事の魅力ややりがいについて、また学生時代の学びが現在の仕事に繋がるなどの話を伝えていただき、学生は将来の進路について幅広く考える良い機会となりました。なお保育科についてはコロナ禍の影響でタイミングが合わず開催することができませんでした。



オンライン就活体験★4days

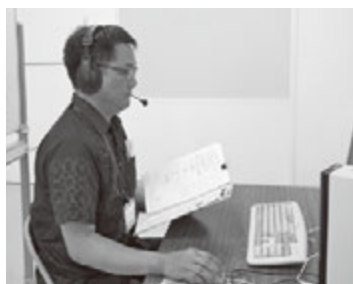
2020年10月29日～11月26日 参加者: 41名

予定していた「就活体験☆合宿(学外で1日)」がコロナ禍の影響で中止となったため、急遽オンラインで対応したプログラムです。

四大3年次、短大1年次を対象に就職活動や選考過程で行われる説明会、エントリーシート・履歴書作成、集団面接、筆記試験などを体験できるものとなりました。

前期でオンラインでの授業を経験した学生は、オンラインでのプログラムでも抵抗なく受講することができ、前年より多くの学生が参加しました。

コロナ禍で進んだオンラインでの就職活動は今後、変わりなく広まっていくと思われますので、結果としてその対応への布石となった前向きなプログラムでした。



来年は沖縄の産業の立て直しにもまだ時間が必要と思われます。したがって厳しい就活になる見込みです。前例や慣習にとらわれずにキャリア支援課一同、全力で学生のサポートをしていきます。

キャリア&アカデミック プラニング講座

2020年10月22日 参加者: 84名

新型コロナ感染拡大が一時的に沈静していた時期に、計画していた就職活動と学修の両立を目指した「キャリア&アカデミック プラニング講座」(対象 四大3年次全員)を対面で開催することができました。卒業後の社会的・職業的自立に必要な能力を在学中に育むためのスタートアップ講座として、英語コミュニケーション学科とキャリア支援課が共同で企画しました。

前半はキャリア支援課より「キャリアプランニング」について話をしました。具体的には①「キャリアプラン表」の書き方②2021卒の就活戦線③2022卒の就活スケジュールと注意点④イベント情報などをお知らせしました。後半は新垣誠人文学部長と就職先内定の4年生2人が参加してくれました。2人が作成した4年間の「キャリアプラン表」について司会の人文学部長がインタビューし、参加した学生は先輩たちがどの時期に目標のために何をしていたのかを理解することで、自分はいつ何をしなければいけないかを確認できたことは自分自身の「キャリアプラン表」作成にとっても参考になったと思います。



2020年度

主な図書館行事

2020年度 図書館はコロナ感染症に対処しながら、学生みなさんに館内を利用いただきました。ただ、コロナ禍で多くのイベントが中止となった事は残念で仕方ありません。次年度も学生が読みたくする本や啓発されるような資料を提供できたらと思います。

4月	◆キャリア関連図書展示	10月	◆聖書展
5月*	◆図書館ツアー(フレッシュマンセミナー等とのタイアップセミナー)		◆留学関係図書展示
	◆4年次向け文献検索セミナー		◆キャリア関係図書展示
	※5月は、コロナ感染防止対策のため、動画資料で提供しました。	11月	◆文献検索セミナー(中級編)
6月	◆慰霊の日(平和関連資料展)	12月	◆クリスマス絵本展
	◆同時通訳(同時通訳関連資料展)		◆ビブリオバトル
7月	◆小説フェア		

図書館主催 図書フェア・イベント・セミナー等

6月

慰霊の日

日時: 2020年6月11日(木)～30日(火)
場所: 図書館1F ロビー

本学では、建学の精神の3本柱である「平和」についての教育を大変重要なこととしています。図書館では、沖縄戦の戦没者を追悼する6月23日の慰霊の日になんで、戦争を知らない世代である学生みなさんの理解を深めるべく、毎年、関連資料を展示してきました。また本学が、太平洋戦争時の皇民化教育への反省や戦後の沖縄再建への願いから設立された経緯を踏まえて、今後も積極的に平和関連の資料収集を行い、利用者に提供していきたいと思っています。

7月

小説フェア

日時: 2020年7月6日(月)～8月14日(金)
場所: 図書館1F ロビー

7月になると図書館では、より多くの学生に本を読んでもらいたく「小説フェア」を開催しています。今夏も芥川賞や本屋大賞受賞作など、数々の魅力ある本を展示しました。このような機会に是非、本に親しんでください。

10月

聖書展示

日時: 2020年10月1日(木)～11月5日(木)
場所: 図書館1F ロビー

10月31日の「宗教改革」記念日の前後に、毎年、図書館で所蔵している47ヶ国の「聖書」を展示しています。ラテン語や東南アジア諸国の聖書も所蔵しており、学内外に広く知ってもらう機会としています。

12月

第6回 ビブリオバトル

日時: 2020年12月10日(木) 16:30～17:30
場所: 仲里朝章記念チャペル



近年恒例となった「図書館主催ビブリオバトル」を開催しました。今年は、コロナ感染防止対策のため、場所を図書館からチャペルに移して開催しました。今回は四大のフレッシュマンセミナーのクラスから3人、ゼミのクラスから2人 計5人のバトルが予選を勝ち抜いて出場しました。それぞれが5分間のプレゼンテーションを見事にこなし、観覧者の質疑にも臆することなく落ち着いた対応で持論を展開し、ここでも授業の成果を発揮しました。観覧者の投票結果、チャンプ本は英語コミュニケーション学科1年次 島田奈苗さんの「あした死ぬかも?人生最後の日に笑って死ねる27の質問」に決定しました。場を盛り上げて下さいました学生やご協力いただいた教職員のみならず、今年度もありがとうございました。今回紹介いただいた本と過去の出場者が紹介して下さった本は館内で展示しています。興味のある方は是非、手に取ってみてください。

11月

図書館司書による文献セミナー中級編

日時: 2020年11月5日(木)～11月19日(木)
場所: 図書館PCコーナー

11月に3、4年次を対象とした、図書館司書による「資料検索方法・データベース利用法」の講習会を開催しました。卒論の作成にあたっては、他の大学図書館を利用することもあり、相互貸借等の利用方法を学びました。参加した学生は司書の説明に沿ってPCを操作し、45分の授業をこなしました。OPACの使い方を覚えて検索が上手になると、図書館がより身近になるかもしれません。



「図書館利用について」の動画をご覧いただけます
その他にも「図書館ツアー」や「文献セミナー初・中・上級編」があります。
https://www.ocjc.ac.jp/library/lib_riyoudouga/



12月

クリスマス絵本展

日時: 2020年12月3日(木)～12月23日(水)
場所: 図書館1F ロビー

クリスマスシーズンに合わせ、イエスの誕生やクリスマスにちなんだ絵本を展示しました。本学図書館は、キリスト教関連の絵本や紙芝居も多数所蔵しており、イエス・キリストの誕生について書かれた絵本も展示しました。



◆2020年度 前後期学内奨学金

本学の同窓会・後援会をはじめ企業・個人、教職員の方々からのご寄付により多くの学生に奨学金を授与することができました。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、毎年行われていた奨学金授与式が中止となり支援者の方々へ直接ご紹介ができず非常に残念ではありましたが、学生たちは皆様のご厚情に感謝し、期待に応えられるよう一層勉学に励む決意を胸に刻んだことと思います。ご支援いただきました皆様には心から感謝申し上げご報告とさせていただきます。

前期：英語コミュニケーション学科(11名)、英語科(6名)、保育科(7名)

後期：英語コミュニケーション学科(29名)、英語科(7名)、保育科(5名)、大学院(1名)

◆在学留学特別奨学金

「在学留学特別奨学金」は、「在学留学」制度を利用し留学する学生に支給される奨学金です。「在学留学」制度を利用すると、本学に在籍している状態での留学となり、休学扱いとはならず、卒業年限(短大は2年、四大は4年)を超えず卒業が可能です。また、留学期間の本学学費は本奨学金で支払われます。

■ 浦崎 隆成

沖縄キリスト教短期大学 英語コミュニケーション学科 3年
2020年度前期 在学留学奨学生
留学先：ポートランド・コミュニティ・カレッジ(米国オレゴン州*協定校)

私はバスケットボールをずっと続けていて、NBAを生で観戦したいと考えていました。また、洋楽が好きで、その本場に行きたいという希望もあり、在学留学制度を利用した留学を決意しました。留学中は新型コロナウイルスの影響で授業が全てオンラインになり、コミュニケーションを取る相手がホストファミリーなどに限られてしまいました。そこでもっと多くの人とコミュニケーションを取りたいと思い、犬の散歩がてら近所の人に話しかけ英語を使う機会を自分から増やすよう努めました。私はIとYouの文化を持つアメリカで、人の意見が自分と違っても、お互いを尊重する大切さを学びました。私はこれから英検やTOEICなどの取得を目指して、将来この留学の経験が形として生きていくように頑張っていきたいです。



誕生日を祝ってもらいました



ホストファミリーと

■ 上間 香音

沖縄キリスト教短期大学 英語科 2021年3月卒業
2020年度前期 在学留学奨学生
留学先：長栄大学(台湾台南市*協定校、長栄大学交換留学生)

台湾や沖縄・日本の歴史の文化に興味があり、更に学びたいと考え、留学しました。現地では台湾人や外国人留学生との交流を大切にしながら過ごしました。留学を通して、様々なことを学びました。みんなと食事(右から2人目) 私は人前で発表することが苦手で、何かをする前に諦めることも多くありました。そんな私が授業で中国語によるスピーチをする事になり、絶対無理だと思っていましたが、先生の推薦やサポートもあり、無事に発表を成功させ、自分はやればできるということを学びました。帰国後、何事も一歩踏み出す、まず行動に移す姿勢が身に付き、留学前よりも成長できたと思います。卒業後はキリ学に編入します。編入後は歴史や語学を更に学びたく、英検準1級や中国語検定は3級取得を目指します。また韓国語も学んでみたいです。スピーチにチャレンジ



みんなと食事(右から2人目)



スピーチにチャレンジ

◆【学習支援センター】我慢と可能性の1年

チュータリングサービス3年目の今年は、コロナ禍で利用者数激減となりつつも、これまでにない活動にもトライした年になりました。

昨年度は、学期の始めに科目担当教員との連携構築にしっかり取り組むことができた学生利用者数の確保につながりましたが、今年は6月にやっと対面授業が始まったものの、学期末にはまた遠隔授業に切り替わり、後期になってからも対面中心のチュータリングはほとんど手につかない状況でした。

一方で、新たな取り組みとして、前期に対面授業に来られない学生のためZoomによる学習サポートを開始しました。英コミの要請に応じて、キャリア支援課の協力も得ながら、学期の終わりまでしっかり支援を継続することができました。また、前期に機関利用の始まったMicrosoft Teamsをいち早く取り入れ、本学の全学生に呼びかけてTeamsTUTORSのメンバーになってもらい、チューターのシフト表の周知につとめたほか、短熟語アプリQuizletを利用してTOEICと幼保英検用の短熟語カードを開発し、Team上のリンクからメンバー全員が利用できるようにしました。

コロナ対策に明け暮れながら、新たな活動のありかたも模索した一年となりました。



■ちゅううちな一草の根平和貢献賞*

〔2019年12月26日 沖縄県庁県民ホール〕

本学の内間清晴教授が代表を務める「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」が第1回ちゅううちな一草の根平和貢献賞を受賞しました。

※「ちゅううちな一草の根平和貢献賞」は、平和で豊かな地域社会の実現や平和に関する県民意識の醸成に寄与することを目的として、沖縄県内において平和につながる身近な社会貢献に取り組む個人・団体へ贈られます。



(左より)金井創コーディネーター、照屋はる香さん(保育科1年)、玉城デニー知事、玉城海音さん(保育科1年)、内間清晴教授

■ 第1回ちゅううちな一草の根平和貢献賞を受賞できるとは夢にも思わなかったことであり、驚きと同時に大変光栄に思います。県民の4人に1人の尊い人命が奪われ、国内唯一の地上戦が行われた沖縄。鉄の暴風雨を生き抜いた人々が焦土化した地で、必死に生きてこられた・歩まれた上に今日の沖縄があります。残念なことで、近年、戦争体験者が時間の経過とともに少なくなってきました。そのような状況の中、沖縄戦の実相を知り継承することの必要性を痛感しました。大学教員として、沖縄・日本・世界の将来を担っていく若者達、大学生が沖縄戦の実相を知ることの大切さ、同時に県内の学生だけではなく、県外の学生にも知っていただき、戦争の愚かさ、平和の尊さを知り、米軍基地問題や辺野古の問題も沖縄だけのものにせず、日本全体の問題として考えもらいたい。同時に、広島と長崎で投下された原爆によって多くの尊い命が失われ、今も苦しみを続けている人々がいることを沖縄の私たちも学ぶべきだと考え、2013

年から「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」を始め、これまでに19大学からの参加者がいます。これまでの「学び合い」を通して学生間に絆が生まれ、それが県を超えて空間的に広がるだけではなく、後輩達につながって行くことは時間を越え広がることになり、とても頼もしく思います。昨年、アフガニスタンの地で亡くなられた中村哲さんの好きな言葉に「一隅を照らす」とあります。まさに、学生一人ひとりが置かれている場所で、平和を希求する者、平和をつくり出すものとして歩んでいくことにより、やがては日本社会全体に良い影響をもたらすものと期待しています。小さな歩みではありますが、今回の受賞を通して、今後もこのプログラムは継続して行くべきだという思いを新たにいたしました。最後に、初回から本プログラムに参加してくださっている西南学院大学、広島女学院大学をはじめとした参加大学、支援してくださった西原町に心よりお礼申し上げます。

■沖縄平和賞シンポジウム

〔2020年10月8日 琉球放送スタジオ〕

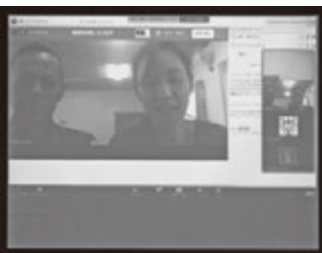
第10回の節目となる沖縄平和賞授賞式(2020年10月27日開催)へ向けての「沖縄平和賞シンポジウム」が2020年10月8日に開かれ、そのパネルディスカッションに本学の内間清晴教授がパネリストとして参加しました。昨年ちゅううちな一草の根平和貢献賞を受賞した、「沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」での学生たちの活動の様子や平和に対する思い、またこれからの展望などを話されました。



琉球放送スタジオにて収録
第1部：基調講演
第2部：パネルディスカッション

■2020年度特別講演会

〔2020年11月3日 オンライン開催〕



2020年度特別講演会が11月3日に開催されました。コロナ対策でオンラインでの実施となりましたが、オンライン環境を持たないの方々のためにシャローム会館1-1教室も開放し、数人が集まりました。オンラインに申し込んだ方は47人で、海外からの申し込みもあり、コロナがもたらしたものはいろいろなことができなくなったという制限と同時に、距離の限界を超えた広がりという可能性でもあることを実感しました。

この度の特別講演会は「文化と平和をつくり出す担い手として—インドネシアの人たちとともに生きる中で—」と題して、ウィクリフ聖書翻訳協会のメンバーとしてインドネシアで奉仕する塚田真理子氏と夫のトゥグー・トゥリヤント氏から現地での様々な取り組みを

伺いました。一時帰国しているご夫妻は塚田氏の実家である新潟から発信して下さいました。

お二人が活動しているのは戦時中、日本軍が多くの住民を虐殺した西カリマンタンで、インドネシアの中では少数民族の地域、しかも80以上の言語が存在します。その地域で受け入れられて識字教育、聖書翻訳だけでなく、民族音楽の発掘と継承に力を注いでこられました。これらのことを通して人々は誇りとアイデンティティを取り戻していています。

対日感情が決して良くはないであろう地域で、人間として受け入れあい、互いの文化や言語を大切にすることで平和がつくり出されていきます。塚田氏ご夫妻はそうした平和の種を蒔き続けています。今回の講演会にはクリスチャン新聞社の方も参加され、講演について新聞に掲載されました。

掲載された記事は、下記URLとQRコードよりご覧いただけます。(クリスチャン新聞サイトへ)

<https://xn--pckuay0l6a7c1910dfvzb.com/?p=29570>



地域貢献

理科教育支援事業

沖縄キリスト教学院と西原町との包括連携協定事業の1つである理科教育支援事業がスタートし12年になります。実験や観察を中心とした支援授業を行っているので、小学校の児童や先生方、教育委員会の方々からも高い評価を得ています。これまで行ってきた支援授業は850コマ(1コマ45分)を超えています。

小学校では2020年度から新しい学習指導要領となり、3年生では「音を出して調べよう」という単元が導入されました。町内3小学校からどのように授業を展開したら良いのかと相談を受け支援授業を行ったので紹介いたします。

糸電話は糸が媒質となって音(音波)を伝搬することを確認した後、同じ固有振動数を持つ2つの音叉を準備し、1つの音叉を叩いて音を出した後その音叉を握り音を止めると、叩いていないもう一つの音叉から音が出ている(共鳴現象)演示実験を行いました。音叉と音叉の間には糸がないのにどうして音が伝わるかと問うたところ、怪奇現象だと不思議がる児童がいましたが、音叉と音叉の間には空気しかないので空気が音を伝えていることを導き、空気がないと音は伝わらないのかという実験を行いました。ブザーを容器に入れ、真空ポンプで容器内の空気を抜いていくと徐々に音は小さくなり、しまいには音が聞こえなくなりました。この実験を観察した児童達から歓声が上がって拍手まで起きました。児童達が目を輝かせて食い入るように実験を観て感動している姿にはとても感銘を受け、これまで理科支援を継続して本当に良かったと思える時となりました。「継続は力なり」、これからも初心を忘れずに、一人でも多くの理科好きな児童を増やしていくことを目標に歩んでいきたいと考えています。



可能性を広げる学校ボランティア実習

学校ボランティア実習は、教職課程の2年次後期に設定された科目で、西原町内の6つの小中学校で、週に1度、学習支援を中心とした教育支援活動に従事します。月曜日の午後1時から5時まで、学習支援、授業補助、学級事務補助、清掃指導、放課後の学習支援、部活動の安全確認の支援など多岐にわたる活動を行います。

その経験を通じて、実際の学校教育の場を、これまでとは違った立場で体験することにより、学生達は日々の教職課程の学びを、より重要なものにとらえるようになります。通常の座学の授業への取り組みもより真剣さを増しているように見受けられます。

また、学生達の中には、学校ボランティアの体験から、小学校免許や特別支援教育免許に興味を持つものもあらわれています。本学では、次年度から星槎大学通信制課程との教育連携を行い、在学中に同校で小学校免許、特別支援免許の取得が可能となります。小学校や特別支援学校の教師を目指すのも良いかもしれません。みなさんの頑張りに期待します。



西原東小学校での学習支援の様子

地域子育て支援実習ワイワイプラザ in キリ短

Aクラス 2020年12月13日

Bクラス 2020年12月20日

「どうしようかなあ、、、」新型コロナウイルスの影響で、2020年度前期の講義が全面的に遠隔講義となり、CDを聞きつつ講義計画の修正に頭を悩ませていたのは2020年の3月でした。地域子育て支援実習(愛称:ワイワイプラザ in キリ短)は、子育て支援の意義・内容・方法などを学ぶとともに、地域の親子をお招きして交流プログラムを実施する内容です。保育科の学生にとっては2年間の学びの成果を披露する卒業制作のようでもあり、また、本学独自の科目でもあるため、教員もまた、大事にしている科目でもあります。学生が主体的に考え、行動して企画を実現していく内容の科目なので、初手から登校できないというのは大打撃だったといえます。

とはいえ、学生の皆さんは教員の心配をよそにサクサクと準備を進めていたようです。やがて後期が始まり対面講義が再開すると、急ピッチでプログラム実施に向けて作業が動き始めました。ところが、12月に入り再び流行が拡大し、学外者の立ち入りが出来なくなってしまう、学外者入構自粛が決定したのはAクラス開催1週間前、その翌週にはBクラスが控えています。

しかし、日頃から様々な授業で鍛えられている保育科の学生。臨機応変・本番に強いところを存分に発揮してくれました。Aクラスはわずか4日間の突貫作業で、親子と一緒に楽しめる遊びを紹介する動画をyoutubeにアップし、模擬イベント当日はinstagramで会場の様子をライブ配信しました。さて、Bクラス。イベント前日は早めに帰宅。当日ものんびりとしており、無観客とはいえどうなることやらと、気が気ではありませんでした。結果は……あっという間に素敵なブースをいくつも作り上げ、保育士役と親子役に分かれて、楽しみながら2年間の学びを分かちあいました。こちらも当日の様子をtwitterやinstagramで配信、動画の再生回数はAB両クラス合わせて500回以上となりました。

—ピンチの中だからこそ、培った力で、新しいことを—

そうした学生の可能性を感じさせてくれる、今期の地域子育て支援実習でした。



おみせさんごっこ



インスタグラムでライブ中継



Bクラス

山城真紀子先生も童心に帰って参加(右から2人目)

出前講座

高校生対象

本学の教員が県内高等学校を訪れて、高校生を対象に、大学での「学ぶ喜び、面白さ」を伝える講座を行います。学問への興味、学ぶ意欲の向上に繋がり、将来のキャリア形成のヒントとなる大学の講義を、高校生に体験していただくことを目的に行っている講座です。

2020年度は新型コロナの影響もあり、限られた開催となりましたが、今後も継続していく予定です。

2020年度の実施状況

実施校	講座名	教員名
宜野湾高校	SDGsはじめの一步	玉城 直美 准教授
那覇西高校	#LoveMyself ～BTSからもらう勇気～	新垣 誠 教授
那覇西高校	英語を使って学ぶWidgetsの学び方	Christopher Valvona 教授

他にも多彩な講座をご用意しています。

● Black Musicの歴史
(人種差別とブルース)

● ブラックバイトに騙されるな!
～バイトと学業の両立を目指して～

● 心理学からみる鬼滅の刃

● 「観光の扉」～モノ消費からコト消費へ～
沖縄観光のおもしろさをもっと知ろう! もっと伝えよう!

● 音読筆写

● 新聞紙アートで遊ぼ!

● Aloha 'Āina 本当のハワイを知ろう

● 台湾を学ぼう!

● ゴミ山の子どもたち

お気軽にご連絡ください

出前講座に関するお問合せ先

【企画推進課】

TEL.(098)946-4161
E-mail kikaku@ocjc.ac.jp

研究助成費獲得による研究活動

【科学研究費助成事業】

- 沖縄語の自然会話コーパスの構築:危機言語の記録・保存・復興・研究・習得のために(2019年度～2021年度)
研究代表者:新垣 友子(沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科教授)
- Cooperative Learning and Japanology:Development of an Intercollege Program for Japanese and International Students(2020年度～2022年度)
研究分担者:Christopher Valvona(沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科教授)
研究代表者:金志 佳代子(兵庫県立大学)
- 持続可能な学びのためのオーセンティック・マテリアルを使用した授業方法の構築(2020年度～2022年度)
研究分担者:Christopher Valvona(沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科教授)
研究代表者:米田 みたか(武庫川女子大学)
- 島嶼地域における女性の主体的移動と近現代社会に与えた普遍的インパクトに関する研究(2018年度～2020年度)
研究分担者:玉城 直美(沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科准教授)
研究代表者:小川 寿美子(名桜大学)
- 観光資源として活かすための八重山諸島群の伝統染織物についての研究(2016年度～2020年度)
研究分担者:佐久本 邦華(沖縄キリスト教短期大学保育科准教授)
研究代表者:又吉 光邦(沖縄国際大学)

【公益信託 宇流麻学術研究助成基金】

- 生活環境の変化と子どもの遊びの実態に関する総合的研究 照屋 建太(沖縄キリスト教短期大学保育科教授)

採用教員メッセージ



「共に学ぶ」
沖縄キリスト教学院大学
英語コミュニケーション学科 特任講師
野間 光顕

様々な繋がりから沖縄に導かれた私は、これまた不思議な繋がりによってキリ学での働き、特に約20年間従事してきた聖書科教員の経験を生かして新入生にとって必修であるキリスト教教養科目の授業を担当できる機会が与えられました。大学の授業は90分、今まで勤めてきた高校の約2倍ですが、その分もっと深い内容を紹介でき、また受講する学生一人ひとりに寄り添うことができる意見・考えなどの「言葉」を丁寧に受け止める事ができます。聖書は一貫して「言葉」の重要性を訴え続けてきました。同じ内容を受講していても、一人ひとり感じ方や捉え方が違う、そこから導き出される「言葉」に宿る見えない力を想いつつ、今日も学びを深めて参りたいと思います。



気づきが多く、人として成長できる教育を目指して！
沖縄キリスト教学院大学
英語コミュニケーション学科 特任講師
山城 莉乃

山城莉乃です。キリ短36期の卒業生です。厳しくもあり、また、愛情溢れる教職員&クラスメートに恵まれ、本当に充実した日々を過ごしました。卒業後は、4年間中学校の教員を務めたのち、ハワイ大学に編入しました。大学院では社会学を専攻し、社会運動とジェンダーを専門に学びました。また、ネイティブハワイアンの方々との出会いも含め、人として大事な学びの多い13年間を過ごすことができました。そのような貴重な学びができたのも、キリ短での2年間にベースにあったからこそです。大好きな母校で、今度は教員として関われることに幸せと感謝な気持ちでいっぱいです。大事なことに気づける教育を提供する精神を継承し、尽力いたします。



Think Globally, Act Locally
沖縄キリスト教短期大学
英語科 特任助教
比嘉 麻莉奈

はいたいぐすーよー。2017年度から非常勤講師、2020年4月から特任助教としてOCIの教壇に立っております比嘉麻莉奈と申します。私はOCIの卒業生です。卒業後、英国の大学院で英語教授法を学んだのは、この大学に帰ってきて教員になりたい、この大学の理念を礎にした教育で沖縄に貢献したいという気持ちからでした。英語は、沖縄と世界をつなぐ架け橋になり得るものです。そしてグローバル化された世界の中でその橋を行き来する学生たちには、外で輝くためにも、内に芽吹くものに敬意を払い育んでいくことの重要性を知ってもらいたいと感じています。この大学の教員として、その気づきの一助になれば幸いです。ゆたさるぐとぅうにげーさびら。

同窓会 活動報告

●定期総会・懇親会及び評議員会

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止しました。同窓会の事業に関する予算決算の決議は、役員・評議員の書面による意思表示をもって総会に代えて書面決議しました。

●学内緑化活動

(1)花壇整備

活動日：2020年3月17日から不定期で実施
場 所：本学内花壇(SHALOM会館前)
特 記：本年度事業の一環として、同窓生有志によって花壇整備を実施しました。



(2)キャンパス内フクギ並木づくり植樹

実施日：2020年12月20日、26日
場 所：本学内(北棟前道路沿い)
特 記：「令和2年度 緑の募金公募事業」の補助金交付を受けて、「福木ひろめる会」のみなさんと同窓生、在学生の有志によってフクギを植樹しました。



同窓会からのお願い

同窓会ではデータによる会員名簿の整備を進めています。変更等をお知らせください

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④メールアドレス ⑤勤務先

【連絡先】同窓会事務局 TEL/FAX：098-946-1280 E-mail：dousoukai@ocjc.ac.jp

後援会 活動報告

●三役会、評議員会

開催日：2020年3月18日(水)
場 所：学内 SHALOM 会館

●定期総会

例年4月の入学式後に開催される総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。後援会の事業に関する予算決算や、役員の選任等の決議は、2020年3月18日に開催された評議員会において決議され、新会長に前里 光信氏が選任されました。

●奨学金

授与式は、中止となりました。9名の学生(内訳:院1名、英語コミュニケーション学科4名、英語科1名、保育科3名)に給付型奨学金が授与されました。

寄付感謝報告

寄付指定(2020年1月1日～12月31日まで)

寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

個人 (124件/¥2,680,491) 団体 (38件/¥13,798,000) 合計 (162件/¥16,478,491)

施設設備資金		
団 体	2	160,000
宗 教 (個)	2	23,000
宗 教 団 体	2	30,000
後 援 会	1	2,915,000
合 計	7	3,128,000

奨学金		
企 業	10	1,280,000
団 体	2	150,000
宗 教 団 体	5	1,205,000
学校関係者(個)	1	200,000
教職員(個)	8	500,000
同 窓 会	1	600,000
後 援 会	1	2,825,000
合 計	28	6,760,000

60周年記念募金奨学金		
同窓/在学生(個)	37	317,000
一 般 (個)	24	122,000
企 業	6	1,110,000
団 体	2	205,000
宗 教 団 体	2	13,000
教職員(個)	40	435,000
合 計	111	2,202,000

学生生活・教育活動		
同窓/在学生(個)	4	17,000
団 体	1	50,000
宗 教 団 体	2	255,000
学校関係者(個)	2	10,000
教 職 員 (個)	2	11
後 援 会	1	3,000,000
合 計	12	3,332,011

その他		
一般 (個)	1	200,000
教職員(個)	3	856,480
合 計	4	1,056,480

2020年度人事

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学

【任期：2024年3月31日まで】

金 永秀 学長
上地 恵龍 副学長

学校法人沖縄キリスト教学院

●教育管理職

2020年4月1日付

【任期：2022年3月31日まで】

金 永秀 宗教部長(学長兼任)
上地 恵龍 学生支援部長、国際平和文化交流センター長兼任(再任)(副学長兼任)
新垣 誠 人文学部長(異文化コミュニケーション学研究科長兼任)(再任)
浜川 仁 短期大学部長(学習支援センター長兼任)(再任)
城間 仙子 教学支援部長
照屋 信治 図書館長
内間 清晴 沖縄キリスト教平和総合研究所長(再任)

沖縄キリスト教学院大学

人文学部

2020年4月1日付

【採用】

小嶺 千尋 英語コミュニケーション学科准教授
野間 光顕 英語コミュニケーション学科特任講師
山城 莉乃 英語コミュニケーション学科特任講師

沖縄キリスト教短期大学

2020年4月1日付

【採用】

比嘉 麻莉奈 英語科特任助教

【昇任】

仲松 あかり 保育科講師(助教)

【異動】

上地 恵龍 英語科特任教授
(英語コミュニケーション学科特任教授)

●事務職員

【採用】

2020年4月1日付

鉢嶺 利奈 総務課書記
仲程 海里 入試課書記

【異動】

2020年9月1日付

仲間 末美 総務課長(キャリア支援課長)
中田 竜次 入試課長(総務課長)
金城 繁正 学生課長(入試課長)
多根 宏治 キャリア支援課長(学生課長)
金城 繁史 学習支援課書記(総務課書記)

2021年2月15日付

上原 乙夫 総務課主任(入試課主任)

2021年3月1日付

金城 繁史 入試課書記(学習支援課書記)
鉢嶺 利奈 教務課書記(総務課書記)

2019年度決算報告

2019年4月1日から2020年3月31日まで

資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科 目	決算額	科 目	決算額
学生生徒等納付金収入	652,181	人件費支出	579,251
手数料収入	12,192	教育研究経費支出	167,872
寄付金収入	19,242	管理経費支出	37,851
補助金収入	100,480	借入金等利息支出	0
資産売却収入	1,289	借入金等返済支出	0
付随事業・収益事業収入	9,630	施設関係支出	28,319
受取利息・配当金収入	2,790	設備関係支出	14,430
雑収入	33,688	資産運用支出	70,000
借入金等収入	0	その他の支出	23,769
前受金収入	250,280		
その他の収入	18,190		
資金収入調整勘定	△ 333,383	資金支出調整勘定	△ 21,214
前年度繰越支払資金	1,085,624	翌年度繰越支払資金	951,726
収入の部合計	1,852,003	支出の部合計	1,852,003

貸借対照表

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	本年度末	科 目	本年度末
固定資産	3,339,537	固定負債	220,531
有形固定資産	2,412,572	流動負債	289,903
特定資産	921,000	負債の部合計	510,434
その他の固定資産	5,965	純資産の部	
流動資産	959,734	科 目	本年度末
		基本金	4,475,393
		繰越収支差額	△ 686,555
		純資産の部合計	3,788,837
資産の部合計	4,299,271	負債及び純資産の部合計	4,299,271

事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目	決算額
教育活動収入計	824,280
教育活動支出計	867,705
教育活動収支差額	△ 43,425
教育活動外収入計	2,790
教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額	2,790
経常収支差額	△ 40,635
特別収入計	3,248
特別支出計	794
特別収支差額	2,455
基本金組入前当年度収支差額	△ 38,181
基本金組入額合計	△ 19,281
当年度収支差額	△ 57,462
前年度繰越収支差額	△ 629,093
基本金取崩額	0
翌年度繰越収支差額	△ 686,555

(参考)

事業活動収入計	830,318
事業活動支出計	868,499

- 【資金収支計算書】は、1年間のすべての収入と支出の内容を表し、当該会計年度における支払資金の顔末を明らかにしたものです。
- 【事業活動収支計算書】は、経常的な収支(「教育活動収支」と「教育活動外収支」)と臨時的な収支(特別収支)のそれぞれ三区分別の1年間の事業活動収入と事業活動支出を表し、当該会計年度における収支均衡状態を明らかにしたものです。
- 【貸借対照表】は、当該会計年度末における財政状態を明らかにしたものです。

オープンキャンパス Campus 2021

『体験授業』、『入試対策』、本学教員による『入試個別相談会』など志望校選択の決め手となるプログラムが充実しています。当日は沖縄本島内に送迎バスを6ルート走らせます!!

1・2年生参加OK!

送迎バスあり!

社会人も見学OK!

保護者同伴OK!

知りたいことは気軽に先輩に質問!

各学科の先生から実際に学べる!!!!

第1回
6/26

第3回
8/28

2022 第5回
2/26

第2回
7/17

第4回
11/6

開催時間 13:00~16:00



YouTube 【オープンキャンパス】

キャンパス見学

個別、仲間同士でゆっくり話を聞きたい方のためにキャンパス見学も随時受付ています。落ちついた雰囲気の中で試験の内容や学費等じっくりと相談できます。体験授業などもご希望に応じて実施いたしますので、事前に入試課へご連絡ください。

入試課

☎098-945-9782

新型コロナウイルスの影響で中止となる場合があります。最新情報はホームページやSNS等でご案内します。

2022年度 入試日程

総合型選抜(A日程)

10月2日(土)、10月3日(日)

学校推薦型選抜

11月27日(土)

総合型選抜(B日程)

12月11日(土)

一般選抜

2月5日(土)

総合型選抜(C日程)

3月8日(火)



HP



FB



LINE



IG